

三木家住宅関連遺跡 I

－令和3年度辻川界限駐車場整備工事に伴う調査報告書－

2023年10月

福崎町教育委員会

あいさつ

福崎町は、北西部と東部を中心に山林が広がり、中央部を南北に流れる清流市川をはさんで東西それぞれに市街地が形成されてきました。古くから交通の要衝として栄え、他地域とのつながりのなかでつくり出され、価値が高められてきた歴史文化遺産が多くあります。

このたび、県指定文化財三木家住宅の南側に位置する松岡家跡の試掘調査及び立会調査成果を報告いたします。

当地区は、県指定文化財三木家住宅をはじめ、国登録文化財の旧辻川郵便局や県指定文化財の旧神崎郡役所、柳田國男生家のほか、日本遺産に認定された生野鉾山寮馬車道など、町の文化ゾーンを形成する歴史文化遺産が数多く所在しています。今回、松岡家跡の調査成果が加わり、当地区に新たな文化財調査の成果が蓄積されることとなりました。

今回刊行する報告書を広く活用いただき、郷土の歴史・文化への理解を深めていただく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査にあたり地元関係者をはじめ、多くの方々にご理解とご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

令和 5年 10月

福崎町教育委員会
教育長 高橋 渉

例 言

1. 本書は、福岡町教育委員会が令和3年度に実施した辻川界隈駐車場整備工事に伴う三木家住宅関連遺跡の試掘・立会調査報告書である。
2. 調査は、福岡町教育委員会が主体となり実施した。整理作業も同様である。
3. 報告書は同じく福岡町教育委員会が主体となり令和5年度に作成した。
4. 令和5年度の調査体制は以下のとおりである。

調査・管理事務局

教 育 長 高橋 渉
社 会 教 育 課 長 木ノ本雅佳
社会教育課課長補佐 鷲尾 進吾
社会教育課係長 長谷川幸子
社会教育課主査 樋口 碧
社会教育課主事 井奥 直人

整理作業・報告書担当

社会教育課主査 樋口 碧
埋蔵文化財専門員 渡辺 昇
整 理 作 業 員 梶 智美
整 理 作 業 員 福永明子
整 理 作 業 員 原井川奈美
整 理 作 業 員 常陰ひとみ

5. 本書に使用した方位は基本的に磁北で、標高は福岡町設定の基準点を使用している。
6. 本書に掲載した図のうちグリッド等位置図は福岡町発行の都市計画図（1/500）を編集したものである。縮尺については各図の下に示している。
7. 執筆は樋口が行い、編集は梶・福永・原井川・常陰の協力を得た。
8. 本報告に係る図面、写真、遺物、史料等は、福岡町教育委員会にて保管している。
9. 田崎正和氏（辻川区区長）には、報告書作成にあたり助言をいただいた。記して感謝します。
10. 調査・整理作業において多くの方々や機関にご指導・ご協力をいただいた。感謝します。

本文目次

あいさつ・例言

はじめに・・ 1

令和3年度三木家住宅関連遺跡試掘・立会調査

1 調査の体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

2 西田原字裏畑試掘調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

3 立会調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

図目次

図1 福崎町の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

図2 三木家住宅関連遺跡の位置と周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

図3 グリッド等位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

図4 試掘調査実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

図5 井戸・溝実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

図6 出土遺物実測図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

はじめに

地理的環境

福岡町は中国山地の東端で、兵庫県中央部の市川中流域に位置している。東西 10.1 km、南北 11.5 km の 45.79 km² の面積である。町域中央に南北に市川が流れ、東西には山崎安富断層沿いに中国縦貫自動車道が通っている。市川中流域に狭くなっている箇所があり、その間を福岡盆地と呼称している。南側はかつての飾磨郡と神崎郡を分ける姫路市砥堀で、北は市川町と福岡町の町境である福岡町山崎である。現在の行政域は福岡町と姫路市に分かれているが旧郡は神崎郡である。町域は市川とその支流である七種川によって形成された段丘面が見られる。山裾には麓層面と扇状地が広がり、谷部は谷底平野と氾濫原になっている。

大庄屋三木家が立地する西田原は、市川の東側で播但連絡道路の西、南は中国縦貫自動車道北側をおよその範囲とする。大半が中位～下位の段丘面であり、西側は市川による氾濫原、北東側は谷川、中ほどに雲津川がそれぞれ東から西に流れ、それらによって開析された狭小な谷底平野がある。

歴史的環境

旧石器時代 西広畑遺跡 (9) から旧石器時代のナイフ形石器が出土しているが、明確な遺構は確認されていない。

縄文時代 縄文時代になると、西田原穴田遺跡 (16)、加治谷藪下五反畑遺跡 (22) で土器が出土している。加治谷藪下五反畑遺跡のものは、前期から後期まで幅広く出土しており、溝から石器も出土している。

弥生時代 弥生時代前期の遺構の様相は不明であるが、中期になると遺跡数は増加する。上大明寺遺跡 (6)、西広畑遺跡、北野寺西遺跡 (13)、加治谷藪下五反畑遺跡、上坂遺跡 (2) 等がある。北野寺西遺跡からは円形周溝墓が、西広畑遺跡からは方形と考えられる竪穴住居が、北野散布地 (3) からは弥生時代末の掘立柱建物や竪穴住居が検出されている。上坂遺跡からは弥生中期の土器片が出土している。

また、上大明寺遺跡からガラス玉や壺棺、未製品の石器が、宮山遺跡 (5) からは弥生時代中期の壺棺が出土している。

古墳時代 古墳時代の集落遺跡は、上大明寺遺跡、加治谷藪下五反畑遺跡があり、いずれも竪穴住居が検出されている。加治谷藪下五反畑遺跡のものはカマドを伴う。

古墳は、妙徳山に所在する妙徳山古墳 (15) があり、神崎郡でも最大級の石室を有する直径約 35m の円墳である。古く



上大明寺遺跡出土ガラス玉



上大明寺遺跡弥生土器出土状況

から石室は開口しており、刀子と須恵器片しか出土遺物は知られていない。谷川の南岸には東広畑古墳(10)や東新田古墳(11)が所在し、鉄刀、馬具、鉄鎌等の鉄製品のほか耳環、勾玉、管玉等の装身具が出土している。時期は6世紀後半である。その北側には大畑古墳群(17～20)が知られており、墳丘の高まりが確認できるものもある。

池ノ谷中池遺跡(21)では灰原と考えられる層から須恵器がコンテナ2箱分検出されており、時期は6世紀末から7世紀初頭のものである。近接する大畑古墳群に須恵器を供給していた可能性がある。



加治谷藪下五反畑遺跡竪穴住居



妙徳山古墳石室



池ノ谷中池遺跡出土土器



東広畑古墳石室内土器出土状況



- | | | |
|---------------|------------|-------------|
| 1 三木家住宅関連遺跡 | 2 上坂遺跡 | 3 北野散布地 |
| 4 下大明寺遺跡 | 5 宮山遺跡 | 6 上大明寺遺跡 |
| 7 西広岡遺跡 | 8 北広岡遺跡 | 9 西広畑遺跡 |
| 10 東広畑古墳 | 11 東新田古墳 | 12 北野寺山西遺跡 |
| 13 北野寺西遺跡 | 14 妙徳山遺跡 | 15 妙徳山古墳 |
| 16 西田原穴田遺跡 | 17 大畑1号墳 | 18 大畑2号墳 |
| 19 大畑3号墳 | 20 大畑4号墳 | 21 池ノ谷中池遺跡 |
| 22 加治谷敷下五反畑遺跡 | 23 大門岡ノ下遺跡 | 24 西田原堂ノ前遺跡 |
| 25 田尻宮ノ西遺跡 | 26 田尻宮ノ前遺跡 | 27 西田原上野田遺跡 |
| 28 西田原止ノ前遺跡 | 29 西田原前田遺跡 | |

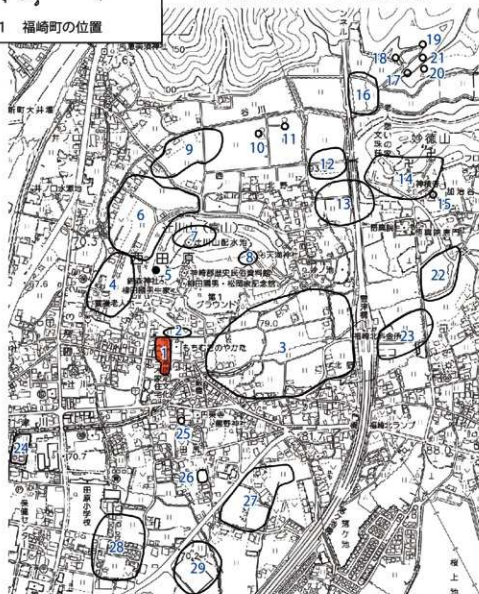


図2 三木家住宅関連遺跡の位置と周辺の遺跡

奈良時代 奈良時代の遺構はあまり知られていないが、上坂遺跡から奈良時代の須恵器や製塩土器が検出されている。上坂遺跡では後世の削平を受けているため、遺構が明瞭に検出されていない部分もあるが、製塩土器が出土していることから古代の拠点的な遺跡であったと考えられる。

平安時代・中世 平安時代になると北野寺西遺跡で竪穴住居が、北野散布地で須恵器が重なって納められた土坑が見つかる。中世になると、加治谷藪下五反畑遺跡や北野寺西遺跡で建物跡が確認されている。



西広畑遺跡竪穴住居



北野散布地土器出土状況



上坂遺跡と三木家住宅周辺（西から）



上空から見た西田原地区（南から）（平成 27 年度撮影）



県指定文化財 三木家住宅主屋

近世・近代 近世の遺構は三木家住宅関連遺跡があり、現三木家住宅東側から溝や石垣が検出され、絵図のとおり、現三木家住宅東側に屋敷地があったことが確認された。

近代になると、日本初の高速産業道路と言われる生野鉱山寮馬車道「銀の馬車道」が、明治9年に播磨の飾磨港（現姫路港）と49km北の生野鉱山とを結ぶために造られた。福崎町には約4kmが通っている。この「銀の馬車道」と明延鉱山、中瀬鉱山へと続く「鉱石の道」は、姫路市、福崎町、市川町、神河町、朝来市、養父市が連携し、国内最大規模で残る鉱山遺跡の魅力伝える歴史文化遺産として、平成29年4月に「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」として日本遺産に認定された。その構成文化財として、県指定文化財である「三木家住宅」と馬車道沿いの町場で、東西・南北の街道が交差して馬車道の物資中継の拠点となった「辻川界限」がある。

この「銀の馬車道」沿いには、国登録文化財旧辻川郵便局が今も残っているが、かつては旧神崎郡役所（現在は移築・復元）、法務局登記所等の官公庁関係施設やえびすや旅館、ますや、鈴の露酒店等の商業施設も「銀の馬車道」沿いに面しており、かつての賑わいを資料から感じ取ることができる。



開墾の終わった西光寺野（1915年）「西光寺野普通水利組合耕地整理組合事業」より中央を銀の馬車道が通る



神東・神西郡地図（明治24年）（田原村部分拡大）『福崎町史第4巻』村図Ⅱより

なお、町内には、南北に姫路から生野（朝来市）へと通じる生野街道（但馬道）、東西に北条（加西市）から夢前（姫路市）へと通じる北条街道が通っている。これらの道筋が辻川を通っていることが「辻川界限」が文化・政治の中心地として発展してきた要因である。

辻川区では平成26年まで29年間、地区全体を画廊に見立てて屋内外に地域住民の文芸作品等を展示する「辻川界限展」を開催していた。また、現在は、鈴の森神社にて平成8年から「民俗学の夕べ」を開催し、地区全体で日本民俗学の創始者である柳田國男生誕地としての「民俗学のふるさと」を地区内外に伝えている。



移築前の旧神崎郡役所



移築前の旧辻川郵便局（平成21年撮影）



姫路区裁判所田原出張所庁舎（明治45年）



田原村役場（昭和15年）



三木家住宅での辻川界限展（平成21年撮影）



現在の「銀の馬車道」（三木家南を東から）

令和3年度三木家住宅関連遺跡試掘・立会調査

1. 調査の体制

調査主体 福岡町教育委員会

教 育 長 高 橋 渉
社会教育課長 松田 清彦
社会教育課副課長 森 公宏
社会教育課係長 藤 原 元
社会教育課主査 長谷川幸子
社会教育課主査 樋 口 碧

埋蔵文化財専門員 渡 辺 昇
整 理 作 業 員 梶 智美
整 理 作 業 員 福永 明子
整 理 作 業 員 原井川奈美
整 理 作 業 員 常陰ひとみ

2. 西田原字裏畑試掘調査

辻川界隈駐車場整備工事の計画があり、令和3年10月18日(月)に試掘調査を行った。現状は駐車場であったが、以前は松岡家跡であった。

3か所グリッドを設定し調査を行ったところ、井戸の存在や風呂の痕跡が確認できた。このことから、松岡家跡を近世遺構と判断し、周知の埋蔵文化財包蔵地三木家住宅関連遺跡として県文化財課に報告した。なお、三木家住宅関連遺跡は、令和2年度に三木家東側の三木家住宅収蔵庫兼展示施設建築に伴う試掘調査により、三木家住宅東座敷と関連する遺構が確認されたため、近接する三木家住宅とともに周知の埋蔵文化財包蔵地として報告している。

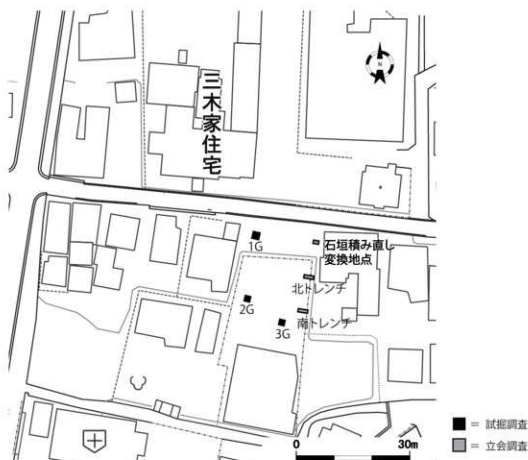


図3 グリッド等位置図

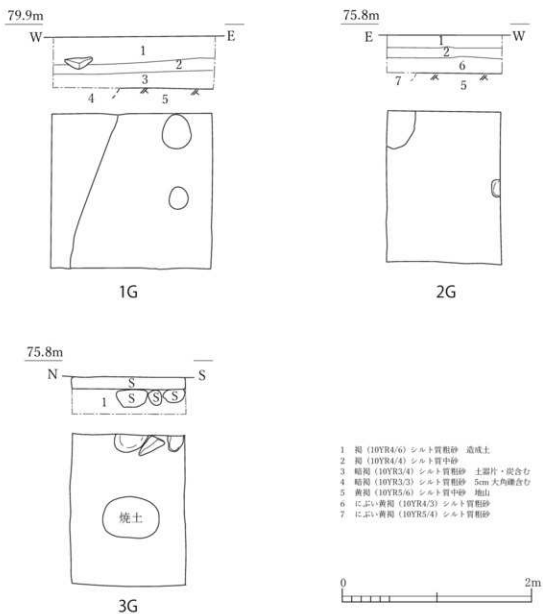


図4 試掘調査実測図



1G調査前



2、3G調査前



1G 機械掘削



1G (南から)



作業のようす



2G (北から)



3G (西から)



埋戻し後

3. 立会調査

調査に至る経緯

西田原字裏畑における試掘調査にて井戸及び風呂跡、近世の土器片が確認された。写真等、残った記録と本家松岡と思われる建物の位置がほとんど一致することから、これら痕跡は松岡家に関する遺構であると判断できた。このことから、三木家住宅と一連の近世遺構とし、三木家住宅関連遺跡の範囲変更を県に進達した。遺跡の範囲は、現三木家住宅の敷地と松岡家跡の敷地である。包蔵地の変更決定を受け、令和3年11月9日付で第94条通知を県に提出し、令和3年11月22日付で工事立会の指示の通知を受けた。

三木家住宅については、三木家に残された写真や屋敷図（家相図）、絵図等から江戸時代から大正までのようすの一端をうかがい知ることができる。例えば、『馬車道清地書上帳』から現在の三木家は「生野鉾山寮馬車道」の拡幅整備の際に表門と土塀を建て替え、位置を北側へ1間（約1.8m）ほど移動させて用地を提供したことや、屋敷図（家相図）から現三木家住宅敷地の東側には東座敷が接続していたことが分かっていく。

松岡家については、柳田國男や辻川区出身の松岡秀隆、辻川史編集委員会が調査を行っている。柳田國男は著書『故郷七十年』で「私の家の古い言い伝えで、江戸時代のはじめごろ、開祖が兄弟連れて播州の西部から辻川に來たと伝え、したがって多分赤松一族だろうということになっている」と述べている。松岡秀隆によると「兄の系統が「本家松岡」といわれ、三木家の向かいに屋敷がある」とのことで、「馬車道清地絵図」（明治7年）等の史料からもその位置関係が分かる。このように、聞き取り調査等で松岡家に関する伝来等はある程度把握できているものの、写真資料が乏しく、今回の立会調査で新たな資料を収集できることが期待された。



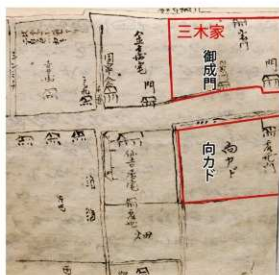
『淡播農工商便覧』（明治24(1891)年）
三木家住宅



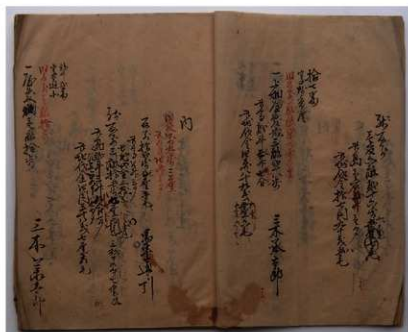
三木庄二郎宅（大正4(1915)年）
右手前に松岡家が写っている



屋敷図（家相図）江戸末期（県指定文化財）
（一部加筆）



『諸事控 四番』（天保8(1837)年）より（一部加筆）



『馬車道潰地書上帳』（明治8(1875)年） 右上：表紙 下：三木家部分



井戸について

試掘調査時に、3Gの断面から石積みの井戸が確認された。工事により井戸上面に影響を受けることから工事立会にて対応を行った。

表土を重機で掘り下げたところ、長辺 2.35 m、短辺 0.98m、厚さ 10 cmの長方形の石蓋が確認された。石蓋を取り除いたところ井戸が検出された。井戸の周辺には円礫が置かれ、石蓋の台にされているようすが確認された。

井戸は上面で直径 0.85 m、深さは 5.44 mを測る。断面調査は行っていないため掘り方は不明である。石組はほぼ垂直に積まれている。井戸の息抜きが1段目下に設けられていることと2段目から石の大きさが変わっていることから、積み直しあるいは追加で1段積まれた可能性がある。

石は井戸の内側面を加工してあるものと自然石のまま使われているものが混在している。石材は目視確認できるものは全て円礫である。

石垣について

本石垣は、松岡家東に位置する区画溝の性格を有する石垣である。三木家住宅や松岡家が機能していた近世以前から存在していたと考えられる。現在資料として残っている明治7年の「馬車道溝地絵図」が示すとおり、区画溝は現在も南北に走っているが、後世の造成工事により両端を埋められている状態であり、幅については計測不能であった。

工事により上層が削られるということで、2か所断面調査を行い、石垣の積み方が変わっているところについても記録をとった。

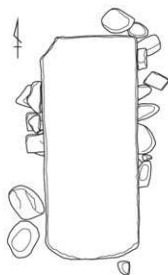
・南トレンチ

7層から成っている。第1層は表土、第2層は褐シルト質粗砂、第3層は黒褐シルト質粗砂、第4層は暗褐シルト質粗砂、第5層は暗褐シルト質粗砂、第6層は黄褐シルト質粗砂、第7層はオリーブ褐礫層である。第2層上面から石垣を積み上げる際の掘り込みがあり、

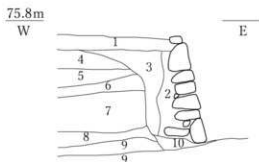


松岡家跡東の溝

裏込めは5 cm大の角礫や30 cm程度の円礫が混じる褐色土を充填している。底面からの高さ 1.14 mを測り、石垣は水路に面した側に石材の加工が見られることから打込接ぎで積み上げられていると判断できる。ただし、根石には加工痕跡は認められない。石材の大きさは、根石に最大で 50 cm × 50 cm程度の円礫が用いられており、その上に同程度の大きさの円礫を積み上げている。断面は78度を測る。

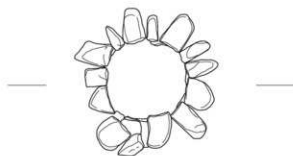


蓋石実測図

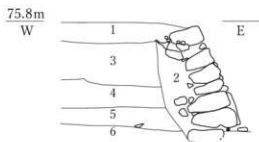


南トレンチ

- 1 表土
- 2 層 (10YR 4/4) シルト質粗砂
- 3 层 (10YR 4/3) シルト質粗砂 底、5 cm以下内縁含む
- 4 層 (7.5YR 4/6) シルト質粗砂 20 cm大縁含む (造成土)
- 5 層 (10YR 2/3) シルト質粗砂 (造成土)
- 6 層 (10YR 3/4) シルト質粗砂 (造成土)
- 7 層 (10YR 3/4) シルト質粗砂 10 cm以上の内縁含む (造成土)
- 8 層 (2.5Y 5/3) シルト質粗砂
- 9 オレンジ層 (2.5Y 4/3) 縁層 (1 cm厚)
- 10 層 (2.5Y 5/4) シルト質粗砂

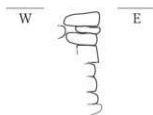


井戸実測図



北トレンチ

- 1 表土
- 2 层 (10YR 4/3) シルト質粗砂 底、5 cm以下内縁含む
- 3 層 (10YR 4/6) シルト質粗砂
- 4 层 (10YR 4/3) シルト質粗砂 底含む (旧耕土)
- 5 層 (10YR 3/3) シルト質粗砂 底含む (旧耕土)
- 6 層 (2.5Y 4/1) シルト質粗砂



石垣積み直し転換地点

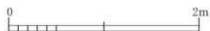


図5 井戸・溝実測図

・北トレンチ

5層から成っている。第1層は表土、第2層は褐シルト質粗砂、第3層はにぶい黄褐シルト質粗砂、第4層は暗褐シルト質細砂、第5層は黄灰シルト質粗砂である。第3層、第4層は旧耕土である。第2層上面から石垣を積み上げる際の掘り込みがあり、大きさ20 cm弱の間詰石が確認できる。水路に面する石材の面は、大半が加工されているが、未加工のものも混在している。根石の下に枕木が確認された。さらに、その下面に円礫が敷かれている。石垣は枕木から高さ1.08mを測る。断面は68度を測る。

・石垣積み直し変換地点

開発地の北から6m程度の地点で石垣の積み方が打込接ぎから野面積みに変化していたため図化による記録を行った。石材の大きさも水路に面しているところでは20 cm×20 cm程度の大きさであり、断面調査は行ってないが表面上間詰石は見られない。断面は89度を測る。

出土遺物

溝の埋土底面付近から須恵器片、近現代の陶器、ビン、瓦が出土した。1は備前焼壺の口縁部であり、中世のもので流れ込みによるものと考えられる。2、3は丹波焼甕の底部である。4～14は磁器で近現代の鉢、碗、皿、猪口である。図化はしていないが、鉄釘やピンも出土している。

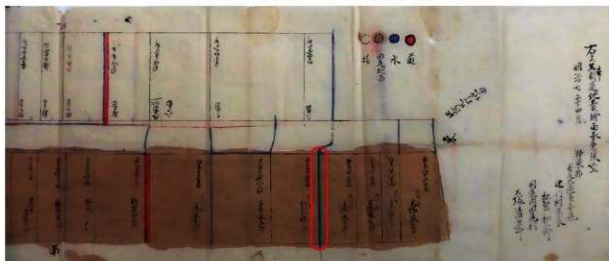
まとめ

調査箇所東から確認された石垣は、「馬車道潰地絵図」に記載されている状況から屋敷境に設けられた溝であると考えられる。断面を3か所記録したが、いずれも石垣の角度や積み方が異なっていた。時期は不明であるが何度か積み替えが行われた可能性がある。

調査地点は、本家松岡家跡と伝わっているが、資料が乏しく詳細について不明なところが多い。しかし、今回の調査で地域の方が記憶されていたとおり井戸が確認される等松岡家の土地利用のあり方を知ることができた。また、出土遺物では、日用に使用されたと考えられる磁器が確認され、松岡家の暮らしぶりを考える上で貴重な資料を得ることができた。

参考文献

- 辻川史編集委員会 2023 歴史読本『民俗学のふるさと辻川』 船場印刷株式会社
松岡秀隆 2007 『松岡源之助傳』 交友プランニングセンター／友月書房
松岡秀隆 2008 『長谷川善雄歴観』 株式会社荒木印刷
柳田国男 1989 『故郷七十年』 神戸新聞総合出版センター



馬車道潰地絵図（明治7年）（一部加筆）



井戸の蓋石検出状況（南から）



蓋石除去後状況（南から）



井戸検出状況（南から）



井戸検出状況（東から）



井戸に水が溜まっている状況



石垣検出状況（南から）



石垣検出状況（南東から）



石垣北側クランク部分



石垣検出状況（北東から）



石垣南トレンチ断面 (南から)



石垣南トレンチ裏込め状況



石垣南トレンチ断面 (北から)



石垣北トレンチ断面（北から）



石垣北トレンチ（北から）



石垣北トレンチ基部枕木



石垣北側（南東から）



石垣積み直し変換地点（北から）



石垣積み直し変換地点（東から）

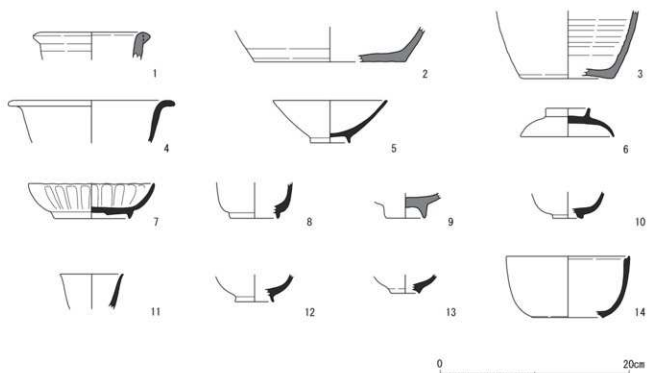


図6 出土遺物実測図

番号	種別	器種	透構	法量 (cm)				調整		備考
				口径	器高	腹径	底径	外	内	
1	無釉陶器	壺		(11.0)	残2.9					備前焼
2	無釉陶器	壺	溝		残3.3		(16.0)			丹波焼
3	無釉陶器	壺			残7.2		(9.0)			丹波焼
4	磁器	鉢	溝	(16.6)	残4.5					
5	磁器	碗	溝	(12.0)	4.5		(4.2)			
6	磁器	碗蓋	溝	9.8	3.0		4.5			
7	磁器	皿	溝	13.2	3.2		7.8			
8	磁器	碗			残3.8		(5.0)			
9	無釉陶器	碗			残2.7		4.0			
10	磁器	猪口			残2.8		(3.2)			
11	磁器	猪口		(6.6)	残3.7					
12	磁器	猪口か			残2.9		(4.0)			
13	磁器	猪口			残2.0		(3.0)			
14	磁器	碗	2 G	(13.0)	6.5		(7.6)			拭痕

土器観察表





報告書抄録

ふりがな	みきけじゅうたくかんれんいせき
書名	三木家住宅関連遺跡Ⅰ
副書名	令和3年度辻川界隈駐車場整備工事に伴う調査報告書
シリーズ名	福崎町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	32
編著者名	樋口 碧
編集機関	福崎町教育委員会
所在地	〒679-2280 兵庫県神崎郡福崎町南田原 3116-1 TEL：0790-22-0560
発行年月日	2023年10月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査 種別
		市町村	遺跡番号					
西田原字裏畑	兵庫県神崎郡福崎町 西田原字裏畑1502	28443		34度 57分 21秒	134度 45分 50秒	2020年 10月5日	13.5	試掘
三木家住宅関連遺跡	兵庫県神崎郡福崎町 西田原字裏畑1502	28443	410151	34度 57分 21秒	134度 45分 50秒	2021年 2月2日 ～14日	—	立会

2023年10月31日発行

福崎町埋蔵文化財調査報告 32

三木家住宅関連遺跡 I

－令和3年度辻川界隈駐車場整備工事に伴う調査報告書－

発 行 兵庫県神崎郡福崎町南田原 3116-1
福崎町教育委員会

印 刷 山野印刷株式会社